



もやいの力

見えてきた「協働」の良さ

「進んで みんなで 最後まで」を行動に！

新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで経験したことがない事態がたくさん発生しました。地域の方々や保護者の皆様も、子供たちが感染しないようにと情報を集め、気を揉まれたことも多かったのではないかと思います。

さて、3月からの約3ヶ月の休校期間、外出を控える中でお子さんと一緒に過ごされ、様々なことを感じられたのではないかと思います。7月3日付の西日本新聞に、次のような記事が載っていました。「9割超の人が学校のありがたさや価値を再認識した」というものです。どんなことに学校のありがたさを再認識したのでしょうか。その調査では、生活のリズムづくり (76.9%)、学習機会 (75.5%)、社会性や人間性を養う場所 (69.9%)、給食 (64.3%) 等々です。裏を返せば、「家庭だけではなかなかできなかった」ということのようにです。学校では学習、家庭では生活習慣、地域では社会性といった子供を育てる役割が、それぞれにあります。



【コミセンロビーに掲示されたスローガン】



しかしながら、今の状況では、なかなかうまくいかないのも現実です。だからこそ一緒になって子供を育てていくことが大切なのです。子供たちへの思いや願いを共有すること、困ったり悩んだりしたら連絡・相談をすることなど、一人で考え一人で決めていくのではなく、皆で考え、皆で育てていくという協働体制を整えていくことが、子供たちのより良い成長につながっていきます。「協働」とは、複数の主体者が目標を共有し、ともに力を合わせて活動することです。中央学園で共有する目標をスローガンとして掲げた「進んで みんなで 最後まで」。東郷・南郷の両コミュニティセンターのロビーにも大きな幕が掲示されています。この心を育てるために、学校、家庭、地域のそれぞれで何ができるのかを考えて、行動に移していくようにしていきたいものです。

学園運営協議会の第2回会議では・・・

第2回「中央学園学園運営協議会」を7月10日(火)に開催しました。今回は、子供たちの実態を知ってもらうためのモニター会です。コロナ禍のため、時間を短くして廊下から参観する形で、東郷・南郷の両小学校と中央中学校での授業参観を行いました。中央中では、給食、掃除の時間も参観し、てきぱきと活動する生徒の姿に感心する声がたくさんあがっていました。後半の協議会では、参観の感想を出し合う中で、小中学校それぞれの子供たちの良さや小中のつながり、地域や家庭での活動について、意見



体育館での熱心な話し合い(熟議)

交流がなされました。「子供を育てる」という視点で、学校、家庭、地域が、それぞれの立場で意見を出し合い、「子供をより良く育てる」という共通の目標の下に、何をどうすればよいかが見え始めてきました。

【東郷小】

- 全体的に学校生活を楽しんでいるように見えた。元気も良いが、礼儀も良かった。このまま続けて欲しい。
- 児童が明るく挨拶も良くできていた。また、よく手を挙げていて、発表も積極的だった。
- 1年生は、まだ学校が始まったばかりの状況だが、集中して先生や友達の話聞いていた。クラスの皆がきまりを守る意識が見てとれた。

【南郷小】

- どの学年学級も落ち着いて学習が展開されていた。電子黒板の活用はとても良いと思った。英語の授業では、フェイスシールドをしており、しっかりコロナ対策ができていた。PTAが購入したとのことで、まさにPとTの連携活動の1つだ。こういう取組を知らない保護者もいると思うので啓発してほしい。
- よく手が挙がっていて、意欲的に進んで学んでいると思った。手が挙がらない子もいたが、みんなの発表を真剣に聞いていた。
- 掃除が行き届いてきれいになっていて、驚いた。校内がさっぱりして気持ちよくすごせそうだ。

【中央中】

- 1年から3年まで落ち着いていると感じた。マスクをしていて話し声が聞こえにくい中で、一生懸命に話を聞こうとしていた。特に3年生の落ち着きと学びに向かう姿勢が良かった。
- 落ち着いて発表しているので意見がよく伝わっていた。まとめる時も協力的にできていた。休み時間等、友達同士が楽しく過ごしている様子が微笑ましかった。
- 1年生は、学校が始まり数カ月だが、南郷、東郷の子も仲良くできているようで、安心した。

(モニター会アンケートより抜粋)

中学生が地域で大活躍!

コロナ禍でなかなか始めることができなかった地域での活動が始まりました。事前の検温や消毒、マスク着用や三密を避ける場の工夫等、感染拡大防止策をとりながらの活動です。

南郷地区では、7月11日(土)に「紙飛行機をつくろう」(アンビシャス広場と青少年育成部会の共催)がありました。50名程の小学生が参加する中、体育館で説明を受けた後、グループ毎に分かれて紙飛行機を作ります。小グループでの活動になるので、世話をするスタッフもたくさん必要です。そんな中で活躍してくれたのが、中央中学1年の中村達人さんと衣笠琥汰郎さんでした。「アンビシャス広場の活動は、小学生の時に参加していた。」とのことで、運営スタッフの一員として講師の先生のアシスタントやグループの世話を進んでしてくれました。活動のまとめとして開催された飛行機とばし大会では、全体進行の大役を担い、閉会行事の中では、感謝の気持ちを込めた参加者からの大きな拍手をもらっていました。



講師のアシスタントを努める中学生

東郷地区では、8月23日(日)にいせきんぐ宗像で子供教室(青少年育成部会主催)が行われます。現在、スタッフとして活動してもらう中学生ボランティアを募集中です。中学生が地域の活動に関わることで、運営する人たちが助かるのはもちろんのこと、参加する生徒自身の心が育っていくことも期待できます。兄姉や近所の中学生にちょっと声を掛けて、誘ってくださるとありがたいものです。(募集チラシ配付済)